



高知市におけるハチクマの渡り

黒岩哲夫¹・橋本裕子²・西村俊彦³・吉本海男⁴
・和田雅典⁵・矢野聖⁶・佐藤重穂⁷

1. 〒780-8052 高知県高知市鴨部 1-1-26
2. 〒780-0025 高知県高知市愛宕山 11-1
3. 〒780-0032 高知県高知市加賀野井 2-11-5
4. 〒780-8130 高知県高知市一宮 2514-3
5. 〒780-0956 高知県高知市北端町 84-7
6. 〒780-0946 高知県高知市上本宮町 58
7. 森林総合研究所四国支所. 〒780-8064 高知県高知市朝倉丁 915

はじめに

ハチクマ *Pernis apivorus* は日本へは夏鳥として渡ってくる。秋の渡りでは日本列島を西進してきたものの大部分は九州北部から中国大陸へ渡り、少数は九州南部から南下するものと考えられている（森岡ほか 1995）。日本列島の太平洋側では、愛知県の伊良湖岬をまわって通過することが知られているが（森岡ほか 1995）、その後の経路については明らかにされていない。

これに対し春の渡りは、全国的にみてもほとんど解明されていない。高知市周辺においても、これまでは観察記録が非常に少なかった。1992年から日本野鳥の会高知支部の有志が高知市において、サシバ *Butastur indicus* を中心としたタカ類の渡りの観察を春と秋に行ってきたが、そのなかで1997年春に高知市北部で少数ながらまとまったハチクマの渡りが観察され、引き続き1998年春の渡りを観察したので、1996年と1997年の秋の渡りの観察結果とあわせて報告する。

調査方法

調査期間は、春は1997年3月22日～5月31日（38日間）、および1998年3月25日～5月21日（38日間）である。秋は1996年は9月21日～10月19日（22日間）、および1997年9月21日～11月2日（28日間）である。

調査場所は、春は高知市北部の円行寺、観月坂である。秋は北部の行川、観月坂等と南部の神田等である。ただし、行川では1997年秋のみ観察を行なった（図1）。調査項目は、

1998年12月9日 受理

キーワード：高知、サシバ、ハチクマ、渡り

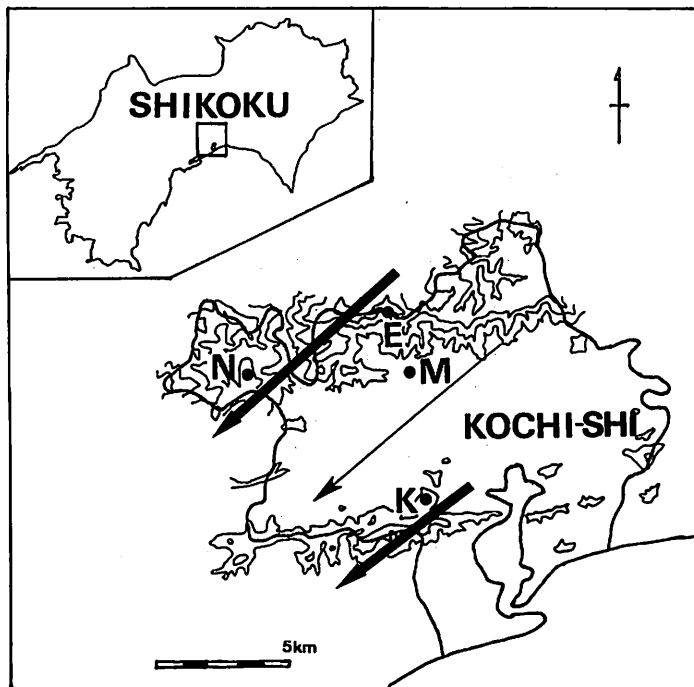


図1. 観察地点の位置図。N:行川, E:円行寺, M:観月坂, K:神田。矢印は秋の渡りの方向を示す。等高線は100m間隔。

Fig. 1. Location of observation sites. N: Namekawa, E: Engyoji, M: Miduki-zaka, K: Koda. Arrows show the migration direction of hawks during autumn migration. Intervals of contour lines are 100m.

日時, 気象, 個体数, 捕捉方位などであり, 1997年秋と1998年春は, さらに個体ごとの年齢, 性別, 羽色の型の識別等を調査項目に加えた。ただし, ハチクマの幼鳥については, 性不明のまま一括して「幼鳥」としてあつかった。観察はすべて目視で行ない, 8~20倍の双眼鏡, および30倍の望遠鏡をもちいた。また南北に分散して観察した秋は, アマチュア無線で随時連絡を取りあい, 後日データの突き合せを行ない, 重複したと思われる分を除いた。

結果

春の渡りの時期に観察されたハチクマの総個体数は, 1997年が34羽, 1998年が28羽であった(図2)。ハチクマの春の渡りは, 3月下旬から5月下旬までの2か月近く観察されたが, ほとんどは5月初旬から中旬にかけて集中していた。

渡りのコースは, サシバとほぼ同じで(黒岩ほか1998), 南西から西方向より飛来し, 北東から東方向へ飛去した。ただし, サシバの場合, 山筋から離れて市街地の上空も普通に飛ぶが, ハチクマの場合ほとんど山筋を飛んだ。

1998年春に, 年齢性別を識別できた個体数は14羽で, その内訳は, 成鳥12羽, 若鳥(幼羽)2羽であった。

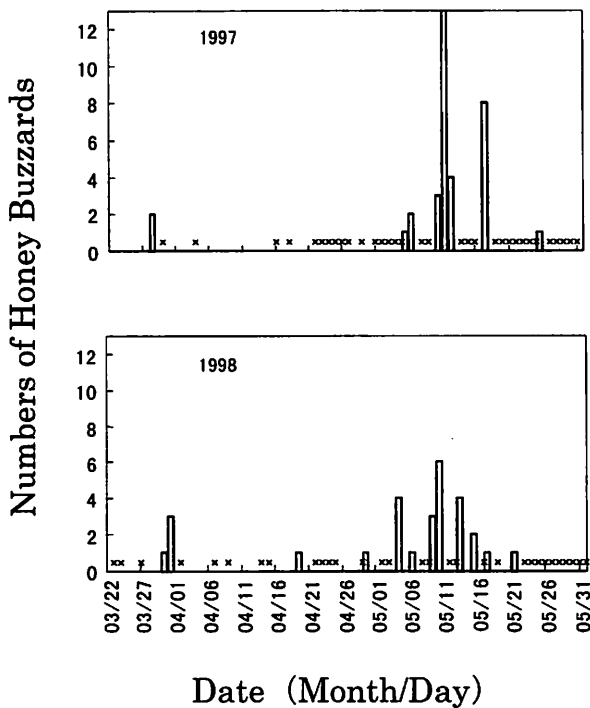


図2. 春のハチクマの観察個体数。×：観察せず。
 Fig. 2. Numbers of Honey Buzzards observed in spring. ×：No sighting.

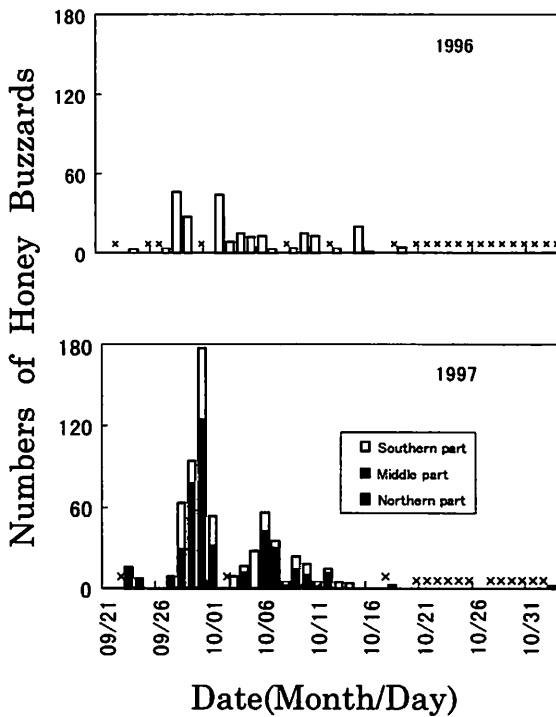


図3. 秋のハチクマの観察個体数。×：観察せず。
 Fig. 3. Numbers of Honey Buzzards observed in autumn. ×：No sighting.

表1. 1997年秋のハチクマの飛翔コース。ただし、高知市南中北同時観察が行なわれた日に限る。
 Table 1. Flying course of Honey Buzzards in the autumn of 1997 in Kochi City. Figures in the upper row show the numbers of hawks on the days on which observations were carried out in southern, central, and northern parts of Kochi City.

	高知市南部 southern part	高知市中部 central part	高知市北部 northern part
ハチクマ	168羽	49羽	347羽
<i>Pernis apivorus</i>	30%	9%	61%
サシバ	5,664羽	5,063羽	5,588羽
<i>Butastur indicus</i>	35%	31%	34%

秋の渡りにおいては、観察されたハチクマの総個体数は1996年は231羽、1997年は631羽であった。1997年秋の渡りは9月下旬から11月はじめまで観察されたが、渡りのピークは9月30日の177羽であった（図3）。

渡りのコースは、サシバとほぼ同じく北東から飛来し南西へ飛去した。サシバの場合、高知市北部の山沿い、高知市中部の市街地、そして高知市南部の山沿いとほぼ均等に飛んだが、ハチクマは約90%が南北の山沿いを飛び、春と同様に、サシバとの顕著な違いがみられた（表1）。

1997年秋に年齢性別等を識別できた個体数は134羽で、内訳は、成鳥雄16羽、成鳥雌21羽、成鳥（性不明）1羽、若鳥雄1羽、若鳥雌1羽、幼鳥94羽であった。

考 察

春の渡りでは、4月までに観察されたハチクマの個体数は、1997年では3月28日に2羽、1998年では3月30日に1羽、3月31日に3羽、4月19日に1羽、4月29日に1羽であり、ほとんどが5月に入ってから観察された。サシバの春の渡りでは、3月下旬から4月中旬までに観察総数の90%以上が渡ることが知られており（黒岩ほか1998）、ハチクマとサシバの渡りには明らかな時期の違いがあった。全国的にもハチクマの春の渡りは、4月中旬から5月下旬といわれており（森岡ほか1995）、今回の高知市の観察と一致する。秋の渡り個体数に対する春の個体数の割合は、1997年春は1996年秋の18%、1998年春は1997年秋の4%であった。サシバの場合、1998年春は1997年秋の40%であり、例年これと同程度の割合であることが知られているので（西村1997）、それに比べるとハチクマは低い値である。また、ハチクマは秋には幼鳥が多数渡るのに対して、春には若鳥の観察された割合が低い。また、高知県におけるハチクマの繁殖時期については、5月上旬に渡来してすぐにディスプレイ飛翔をはじめ、繁殖行動に入ることが観察されている（黒岩ほか1999）。このように、観察される個体数が少ないこと、若鳥の占める割合の低いこと、渡りの時期と重なって繁殖行動が開始されることから推測すると、高知市で観察されるハチクマの春の渡りは、本州や北海道の繁殖地へ至る渡りの主要な経路の途上にあるのではなく、高知県とその周辺部の繁殖地への個別の分散なのかも知れない。また、春の渡りでは成鳥と若鳥とが別の経路あるいは別の

時期に渡るという可能性もある。

サシバの春の渡りでは南西諸島から九州南部へ北上し、その一部が四国を東進して本州へ向かうというのが主要な経路と考えられ、高知市を3月下旬から4月中旬に大部分が通過する(黒岩ほか1998)。ハチクマについては、高知市に至るまでの途上での観察記録が明らかにされていないが、今回、3月下旬に観察された少数のハチクマの個体は、サシバの渡りに混じって観察されていることから、サシバと共に上記の経路で渡っている可能性も考えられる。ただし、ハチクマの春の渡りについては、全国的に見ても解明されている地域がきわめて少ないため、その経路について検討するには、情報が不十分である。

1996年秋の観察では、1997年よりも観察期間および日数が短かったため、ハチクマの観察個体数は200羽あまりであり、1997年と比べると少なかった。1992年から1995年の秋の高知市における橋本と西村による観察では、ハチクマは1シーズンに70羽ないし140羽あまりであったが(付表)、これは観察日数が少ないことや観察地点が統一されていないことなどの理由がある。

1997年秋は、観察期間を11月上旬まで延ばし、雨天以外の観察日数が多く、さらに観察場所も高知市北端部の行川を加えたため、631羽と多数が観察されたと思われる。

サシバの1997年秋の渡りのピークは10月6日であり(黒岩1998)、ハチクマはサシバより1週間早くピークを迎え、渡り時期の微妙な違いがみられた。

伊良湖岬では、例年観察されるハチクマの大部分を若鳥、幼鳥が占めることが知られている(森岡ほか1995、伊良湖岬の渡り鳥を記録する会1995)。一方、長野県の白樺峠でのハチクマの渡りは、例年成鳥の割合が多数を占めるとされている(信州ワシタカ類渡り調査研究グループ1996)。白樺峠を通過する集団はその後、近畿地方中部から中国地方南部を通過すると考えられている(森岡ほか1995)。ただし、近畿地方中部や中国地方南部で観察されるハチクマの年齢については明らかでない。1997年秋の高知市では、観察総数に対する年齢識別割合が21%で、その内訳は成鳥28%、若鳥2%、幼鳥70%であった。高知市を通過する個体は、伊良湖岬を渡る集団と同じものを含む可能性があり、幼鳥が大半を占める渡りは、太平洋側のハチクマの渡り集団の特徴を示しているのではないと思われる。

日本列島におけるハチクマの秋の渡りについては、近畿地方中部から中国地方南部および九州北部を西進するのが主要な経路であると考えられ(武田1989、森岡ほか1995)。その後、九州北西部の五島列島から東シナ海を西へ横断するものと考えられている(井上1998)。今回の高知市で調査されたハチクマの渡りは、上記の中国地方南部から九州北部へ至るものとは異なる経路の途上にあると思われる。高知市を通過した後の経路については、現状では明らかでないが、四国西部におけるハチクマの秋の渡りは、愛媛県南西部の高茂岬と由良岬の合計で1シーズン約100～200羽(楠木憲一私信)、愛媛県北西部の佐田岬では1シーズン1,000羽程度の渡りが確認されている(井上勝巳私信)。愛媛県南西部で観察されるハチクマは、四国太平洋側を西進してきた集団であると考えられ、高知市

よりも南側の海上を渡っている可能性はほとんどないので、高知市を通過した渡り集団は愛媛県南西部へ向かう可能性が高いと考えられる。しかし、1997年秋に高知市で600羽余りが確認されていることを考慮すると、そのうちの一部は愛媛県北西部へ進んでいる可能性もある。

四国西部を通過した後の経路については、大分県東部の関崎で1シーズン1,000羽前後の渡りが観察されているが(立川1997)、これは佐田岬の渡りに対応するものと考えられるので、四国北西部から大分県関崎へ渡った後、上記の九州北部を通る主要な経路と合流して五島列島に至るといった可能性が高いものと考えられる。一方、愛媛県南西部から九州へ渡る集団については、その後の経路は明らかではないが、九州中部を横断して、九州北西部で上記の五島列島へ至る経路に合流する可能性と、上記の経路に合流せずに九州南西部から東シナ海を横断する別の経路が存在する可能性の2つが考えられる。後者の経路については、熊本県南部で10月に数十羽のハチクマが南もしくは南西方向へ渡るのが確認されている(井上賢三郎私信)ことを考慮すると、その存在が示唆される。しかし、上記の2つの可能性のどちらについても、裏付けとなる観察記録に乏しい。なお、鹿児島県大隅半島では、1シーズンに数羽ないし10羽程度というごく少数のハチクマがサシバの渡りの時期に観察されている(永井健介私信)ことから、四国太平洋側を通過したハチクマのうちの少数は、九州南部から南西諸島へ南下するという経路で渡っている可能性がある。

このような渡りの経路の存在を確認するには、四国西部および九州東部とその周辺の地域でのハチクマの渡りについての調査結果が明らかになる必要がある。また、鳥に電波発信機を装着して渡りを追跡する調査が実施されれば、地上からの目視だけによる観察よりも効率よく渡りの経路を明らかにすることが可能であろう。

謝 辞

橋田晃浩氏と小畑義明氏には随時、観察に協力していただいた。井上勝巳、楠木憲一、永井健介、井上賢三郎、立川孝之、志賀信幸の各氏には、それぞれの地域でのハチクマの渡りの貴重な観察結果および渡りの状況についてご教示いただいた。以上の方々に深く感謝申し上げます。

要 約

高知市で、ハチクマの渡りを1996年秋から1998年春まで観察した。春は、3月下旬から5月下旬まで観察され、5月中にほとんどが渡った。秋は、9月下旬から10月下旬頃まで観察され、ピークは9月下旬であった。観察されたハチクマの総個体数は、春は約30羽だったが、秋は多い年には600羽余りであった。年齢構成は、春は成鳥が多かったが、秋は幼鳥の占める割合が約7割であった。同時に観察したサシバとは、渡りの時期や高知市を飛ぶコースに違いが見られた。

引用文献

- 井上勝巳. 1998. 長崎県五島列島・福江島のハチクマの渡り. *Strix* 16: 109-120.
- 伊良湖岬の渡り鳥を記録する会. 1995. 1994年伊良湖岬の渡り鳥調査報告書. 伊良湖岬の渡り鳥を記録する会, 愛知.
- 黒岩哲夫. 1998. 1997年秋のタカの渡り観察結果について. *しろべん* (135): 1-9.
- 黒岩哲夫・西村俊彦・橋本裕子・吉本海男. 1998. 高知市における春期のサシバの渡り. *Strix* 16: 121-126.
- 黒岩哲夫・橋本裕子・吉本海男・西村俊彦・佐藤重穂. 1999. 高知県におけるハチクマの繁殖確認. *Strix* 17:.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 西村俊彦. 1997. サシバで遊ぶその2. *しろべん* (130): 8-10.
- 信州ワシタカ類渡り調査研究グループ. 1996. 信州のタカ渡り1995年報1991～1995まとめ. 信州ワシタカ類渡り調査研究グループ, 長野.
- 武田恵世. 1989. 日本列島におけるタカの渡り. *Strix* 8: 35-123.
- 立川孝之. 1997. 96年ハチクママラソン結果報告. *たより* (142): 14 - 16.

A migration route of the Honey Buzzard in Kochi, south-western Japan

Tetsuo Kuroiwa¹, Yoshiko Hashimoto², Toshihiko Nishimura³, Umio Yoshimoto⁴,
Masasuke Wada⁵, Kiyoshi Yano⁶ & Shigeho Sato⁷

1. 1-1-26 Kamobe, Kochi-shi, Kochi 780-8052
2. 11-1 Atagoyama, Kochi-shi, Kochi 780-0025
3. 2-11-5 Kaganoi, Kochi-shi, Kochi 780-0032
4. 2514-3 Ikku, Kochi-shi, Kochi 780-8130
5. 84-7 Kitabatachyo, Kochi-shi, Kochi 780-0956
6. 58 kamihonnguchyo, Kochi-shi, Kochi 780-0946
7. Shikoku Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute. 915 Asakura-tei, Kochi-shi, Kochi 780-8064

The migration of Honey Buzzards *Pernis apivorus* was observed in Kochi-shi from the autumn of 1996 to the spring of 1998. The spring migration occurred between late March and late May, though most of the Honey Buzzards were observed in May. The autumn migration occurred between late September and late October, with a peak at the end of September. About 30 Honey Buzzards were observed in the spring migration season, while more than 600 individuals migrated in an autumn. Most of the Honey Buzzards during spring migration were identified as adults. On the other hand in the autumn migration 70% of them were juveniles. The peak of the migration and the migratory routes were different between the Honey Buzzard and the Grey-faced Buzzard-Eagle *Butastur indicus*.

Key words : Grey-faced Buzzard-Eagle, Honey Buzzard, Kochi-shi, migration

付表. 西村・橋本らによる高知市のハチクマの渡り観察個体数. 1993年は高知市北部のみ
の観察. 1992年, 1994年, 1995年は高知市北部と南部の観察個体の合計. いずれの年も
観察地点数, 観察期間などの調査方法が統一されていない.

Appendix. Numbers of Honey Buzzards during the autumnal migration at Kochi City by
Nishimura and Hashimoto. In 1993 observation was carried out only in the northern
part of Kochi City. In 1992, 1994, 1995 figures are the total of observed Honey Buzzards
in the northern and southern parts of Kochi City. The number of observation points and
the duration of observations varied each year.

年 Year	個体数 Number of Honey Buzzards	観察日数 Days of observation
1992	83	18
1993	144	29
1994	102	35
1995	74	21